

「農林水産研究開発レポート」の平成 14 年度テーマ(案)

平成 14 年 3 月
技術政策課

次年度テーマについては、昨今の行政ニーズが特に高く、政策的色彩の濃い研究課題を選定するとの考え方に立ち、以下の案としてはどうか。

平成 14 年度テーマ(案)

技術会議への報告時期	テーマ	記載内容例
第1四半期 (14年6月)	機能性食品の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品素材の品質特性解明 ・ 食品素材, 微生物・酵素の高度利用技術
第2四半期 (14年9月)	バイオマスエネルギー利用技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農林系廃棄物のエネルギー変換技術等
第3四半期 (14年12月)	遺伝子組換え作物の安全性評価とPAの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境・生態系への影響評価 ・ 国民理解増進に向けた取組等
第4四半期 (15年3月)		

注1: 情勢変化等によりテーマの変更はあり得る。

2: 刊行時期は、技術会議への報告の翌月を基本とする。

3: 第4四半期のテーマについては、上半期の動向等も踏まえ、第3四半期以降に決定する。

(参考)

平成 13 年度における「農林水産研究開発レポート」の取組実績

1. 平成 13 年度刊行実績

刊行時期	テーマ
第 2 四半期 (13 年 10 月)	『麦の高品質化を目指して』
第 3 四半期 (14 年 1 月)	『イネゲノム情報を読む』
第 4 四半期 (14 年 4 月(予定))	『家畜排せつ物処理・利用技術の高度化(仮題)』

2. 公表・広報

全国の行政機関、試験研究機関、大学、農業高校、図書館、民間団体、消費者団体等に約 5 千部を配布(第 2 号から配布先を拡大)

農林水産技術会議ホームページに全文を掲載

刊行前にプレスリリースを実施

他の刊行物にレポートに関する PR 記事を掲載

- ・月刊技術会議
- ・農林水産省メールマガジン

メール、FAX、郵便等による意見・感想を継続的に募集中

平成14年1月18日(金)
日本農業新聞(6面)

イネゲノム情報 冊子で成果紹介

産議
水会
林術
農技

農水省農林水産技術会議事務局は、イネゲノム研究の現状と成果を紹介する農林水産研究開発レポート「イネゲノム情報を読む」を作成した。

イネゲノム研究は、日

本を中心とする国際的な協力関係の下で、全塩基配列の解読作業が急ピッチで進み、今年末までに解読作業を終える計画。さらに、研究の中心課題が、ゲノムの中から意

味のある有用遺伝子を取り出し、機能を解明、利用する「ポストゲノム」研究に移っている状況だ。同レポートはA4判、十四ページ。イネゲノムの全塩基配列の解読状況や研究の全体像、今後の研究の方向性と可能性などについて、図表付きで分かりやすく解説している。今回のレポートは、昨年秋に発行した「麦の高品質化を目指して」に次ぎ

二冊目。

同事務局のホームページに全文を掲載している。アドレスは <http://www.s.affrc.go.jp>

ホームページを見られない場合には、無償配布も可能。問い合わせは同事務局技術政策課、(電)3(3502)8111

(内線)5054、5055)。